

マニフィカト - 2022年3月。一緒に祈るテキスト...

(自動翻訳DeepL - deepl.com)。

私たちは、マニフィカトの歌を知っています。ルカはその福音書(1章46節から55節)の中でそのことを語っており、私たち一人ひとりが自分の言葉で読み、祈ることができるのです。

今回から、個人と共同体の祈りに役立つ考察をご紹介します。

"マニフィカト"の中で聖母マリアは、利己主義、プライド、自分の利益を追求することから生まれる不安や落ち着きのなさから解放されているように見えます。むしろ、彼女の望みをすべてかなえてくれる神の愛に歓迎され、祝福されていることを知る人のような深い落ち着きをもって、彼女は現れるのです。私たちはマリアの中に、人が自分の人生に神を介入させ、神に自分の存在の主役を 与えるときに何が起こるかを見るのです。彼女は、私たちを生命と幸福で満たそうと、常に私たちの心と社会の扉を叩いておられる神の慈悲深い行為が、どこまで届くかを教えてください。

マリアのマニフィカトは、私たちに神に向かって歌うことを教えてください。彼女は自分の経験を出発点としていますが、自分の小さなエゴに閉じこもるのではなく、自分の個人的な経験から、人類の歴史とその民イスラエルにおける神の行為を熟考するために飛び立ち、あるいは視線を広げています。

マリアは神に祈願の祈りを捧げてはいません。幼子福音書の他の歌(洗礼者ヨハネの父ゼカリヤのベネディクトゥスとシメオンの短いテキスト)と同様に、神が行動され、待ち望んだ時が成就に向かったので、祈願と希望は喜びと 祝賀に変わります。神の慈しみが代々忠実な者に与えられるのであれば、私たちもその慈しみの働きに目を開き、それを讃える新しい讃美歌を作曲するよう招かれているのです。